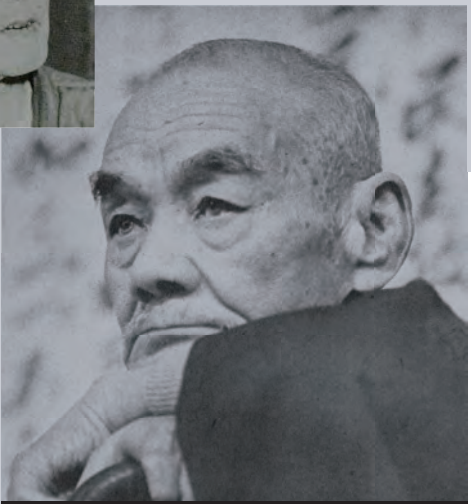




# 近代日本メディア議員列伝

(全15巻)

佐藤卓己編集  
(京都大学大学院教授)



佐藤卓己氏の単独編集による完全書下ろし新シリーズ、いよいよ創刊!!

四六判・上製 各巻平均 350 頁  
各巻予価：2,970 円 (本体 2,700 円)  
2023 年 6 月刊行開始

国会議員がこぞってSNSで発信し続ける現代政治に、私たちはどう向き合うべきか？

明治から戦後にかけて、(政治のメディア化)を体現したメディア議員たちを取り上げ、一人につき一冊まるごと割り当てて深掘りする、これまで無かった人物列伝!

## この〈新〉列伝を推薦します

(50音順・敬称略)



「メディア議員列伝」への期待  
有山輝雄 (メディア史研究者)

文字・画像・映像などの大量複製技術を利用したメディアの登場が社会、文化などのあり方を大きく変えたことは改めて言うまでもないことだが、政治においては政治行為の演劇化をもたらす。政治家達は政治運動であろうが国会の議場だろうが、劇場の俳優のように演技することが当然のこととなる。天性として演技力にたけた人物、自らメディア活動に従事し自己演出技術などを習得した人物が政治の世界で大きな役割をはたすのである。この「メディア議員列伝」シリーズはメディアという切り口から様々な政治家たちの横断面を明らかにしようとする大胆な試みである。政治史研究、メディア史研究に大きな刺激をあたえることを期待する。



デモクラシー—総力戦、戦前—戦後の連関を問い直す  
藤野裕子 (早稲田大学教授)

劇場型政治、ポピュリズム—現代の政治・選挙のあり方をさかのぼれば、戦前の「メディア議員」に行き着く。明治以来、新聞と議員は密接につながっていた。デモクラシーと大衆社会化が同時に進展した大正期、マスメディアの力は有権者を動かす政治力となり、1930年代には総力戦への動員力にもなった。そう、「メディア議員」は政治—社会の交点に位置づくのだ。世代・思想の異なる14人の議員の評伝は、政治史・文化史を架橋し、デモクラシー—総力戦、戦前—戦後の連関を問い直す。必読のシリーズである。



政治の言葉が遠く隔たってしまった歴史的分岐点を探る  
與那覇潤 (評論家・元歴史学者)

かつて、あらゆる「書くこと」は政治だった。筆を執るものはみな、文字や言葉の使い手であることの誇りと、読み手の心を動かそうとする情熱に焦がれていた。しかしいま、私たちの言葉と政治の現場で語られる言葉とは、遠く隔たってしまった。どこで間違いがあったのか。違う可能性はなかったのか。明治から戦後までの歴史に分岐点を探り、「ジャーナリスト出身」の議員たちの格闘を掘り起こす搜索の旅に期待します。

**創元社** 〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6 TEL 06-6231-9010 FAX ご注文は今すぐ!!  
<https://www.sogensha.co.jp/> [東京支店] 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-2 田辺ビル TEL 03-6811-0662 06-6233-3111

※この注文書でお近くの書店さまへご注文ください。書店ご不便の場合は直送もいたします(詳細は創元社WEBサイトをご確認ください)。

創元社申込書 し住所 お名前	<b>新刊</b> 近代日本メディア議員列伝 第1回配本 <b>池崎忠孝の明暗—教養主義者の大衆政治 [6巻]</b> ISBN978-4-422-30106-8 C0336 定価2,970円(本体2,700円)®	取り扱い店名 冊
	<b>近刊</b> 近代日本メディア議員列伝 第2回配本 <b>降旗元太郎の理想—名望家政治から大衆政治へ [2巻]</b> ISBN978-4-422-30102-0 C0336 定価2,970円(本体2,700円)®	冊
〒		
Tel	( )	
フリガナ		
	◆創元社WEBサイト◆ <a href="https://www.sogensha.co.jp/">https://www.sogensha.co.jp/</a>	



## 『近代日本メディア議員列伝』刊行にあたって 佐藤卓己

メディア議員とは「メディア経験をもつ代議士」あるいは「議席をもったジャーナリスト」である。新聞社、雑誌社、放送局などメディアでの経験を足場に政治家となったメディア議員の計量分析および集团的考察については、すでに佐藤卓己・河崎吉紀編『近代日本のメディア議員——「政治のメディア化」の歴史社会学』(創元社・2018年)でまとめている。その副題にもある「政治のメディア化」とは、政治が価値や理念の実現ではなく、効果や影響力の

最大化を目指して展開されていく状況を意味する。その状況を体現するのがメディア議員と言えよう。意外と感じる人も多いだろうが、満洲事変から太平洋戦争までの時期の衆議院でメディア議員は全議席の3割を超えていた。

それは注目すべき現象と言えるが、これまでメディア議員の研究はほとんど行われていない。その理由は想像できる。政治の視点で見れば、理念よりも影響力を重視する政治はポピュリズム(大衆迎合主義)であり、それを体現する議員はまともな政治家とはみなされない。ジャーナリズムの視点で、その扱いはさらに困難である。メディアに「権力の監視役」、「不偏不党」、「体制批判」を求めるなら、メディアと政治の境目が無いメディア議員はグレーゾーンの存在だからである。しかし、今日私たちが目にする政治家はSNSで日々刻々と情報を発信するわけであり、その多くは理念よりも影響力を重視している。そうしたウェブ体験を経て当選した議員は、多かれ少なかれメディア議員ではないだろうか。

この「近代日本メディア議員列伝」はそうした現代政治に直結する問題意識から企画されたシリーズである。なぜこの14人が選ばれたかは各巻で説明するが、必ずしも大物政治家を選んでいない。近代日本のメディア議員としては、原敬(『大東日報』主筆)、犬養毅(『郵便報知新聞』記者)、加藤高明(『東京日日新聞』社長)、石橋湛山(『東洋経済新報』社長)など首相経験者も少なくない。そうした大物よりも、「政治のメディア化」の多様な問題点を多角的に示せるように選んだつもりである。本シリーズがメディア社会に生きる私たちの現代政治への向き合い方に役立つものとなることを願っている。

### 佐藤卓己

1960年、広島県生まれ。京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。東京大学新聞研究所助手、同志社大学文学部助教授、国際日本文化研究センター助教授などを経て、現在は京都大学大学院教育学研究科教授。専攻はメディア史、大衆文化論。2020年にメディア史研究者として紫綬褒章を受章。著書に『大衆宣伝の神話』(ちくま学芸文庫)、『現代メディア史』(岩波テキストブックス)、『キング』の時代』(岩波現代文庫、日本出版学会賞・サントリー学芸賞受賞)、『言論統制』(中公新書、吉田茂賞受賞)、『八月十五日の神話』(ちくま学芸文庫)、『輿論と世論』(新潮選書)、『ファシストの公共性』(岩波書店、毎日出版文化賞受賞)、『負け組のメディア史』(岩波現代文庫)など多数。

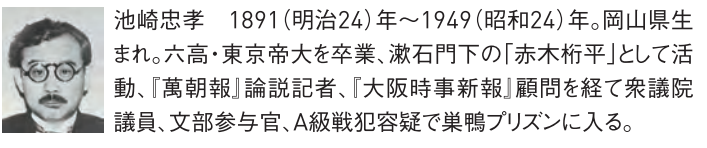
### 全巻構成

- 1巻◆片山慶隆 『大石正巳の奮闘—自由民権から政党政治へ』
- 2巻◆井上義和 『降旗元太郎の理想—名望家政治から大衆政治へ』
- 3巻◆河崎吉紀 『関和知の出世—政論記者からメディア議員へ』
- 4巻◆戸松幸一 『古島一雄の布石—明治の俠客、昭和の黒幕』
- 5巻◆白戸健一郎 『中野正剛の民権—狂狷政治家の矜持』
- 6巻◆佐藤卓己 『池崎忠孝の明暗—教養主義者の大衆政治』
- 7巻◆赤上裕幸 『三木武吉の裏表—輿論指導か世論喚起か』
- 8巻◆佐藤彰宣 『石山賢吉の決算—ダイヤモンドの政治はあるか』
- 9巻◆福岡良明 『西岡竹次郎の雄弁—苦学経験と「平等」の逆説』
- 10巻◆石田あゆう 『神近市子の猛進—婦人運動家の隘路』
- 11巻◆松尾理也 『橋本登美三郎の協同—保守が夢見た情報社会』
- 12巻◆松永智子 『米原昶の革命—不実な政治か貞淑なメディアか』
- 13巻◆山口 仁 『田川誠一の挑戦—保守リベラル再生の道』
- 14巻◆長崎励朗 『上田哲の歌声—Why not protest?』
- 15巻◆河崎吉紀 『近代日本メディア議員人名辞典・付総索引』

**『シリーズ刊行計画』**

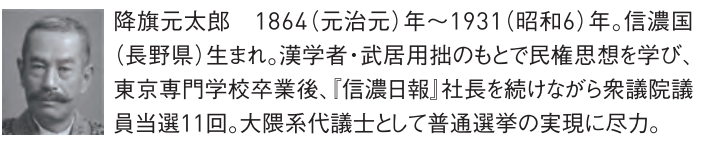
**第1回配本** 6巻 佐藤卓己(京都大学大学院教育学研究科教授)

『池崎忠孝の明暗——教養主義者の大衆政治』  
 【2023年6月】 ISBN978-4-422-30106-8 C0336



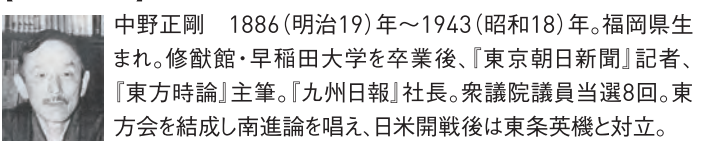
**第2回配本** 2巻 井上義和(帝京大学共通教育センター教授)

『降旗元太郎の理想——名望家政治から大衆政治へ』  
 【2023年8月】 ISBN978-4-422-30102-0 C0336



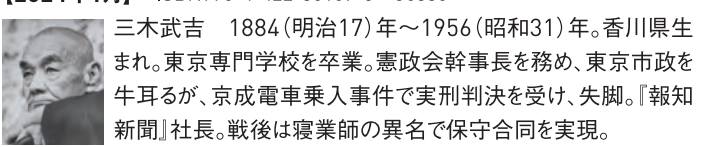
**第3回配本** 5巻 白戸健一郎(筑波大学人文社会系准教授)

『中野正剛の民権——狂狷政治家の矜持』  
 【2023年11月】 ISBN978-4-422-30105-1 C0336



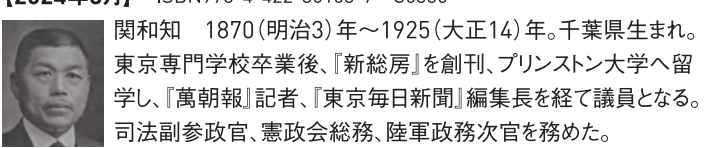
**第4回配本** 7巻 赤上裕幸(防衛大学校人文社会科学群公共政策学科准教授)

『三木武吉の裏表——輿論指導か世論喚起か』  
 【2024年1月】 ISBN978-4-422-30107-5 C0336



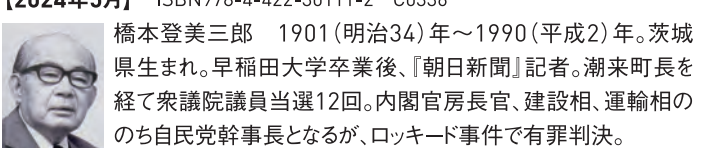
**第5回配本** 3巻 河崎吉紀(同志社大学社会学部教授)

『関和知の出世——政論記者からメディア議員へ』  
 【2024年3月】 ISBN978-4-422-30103-7 C0336



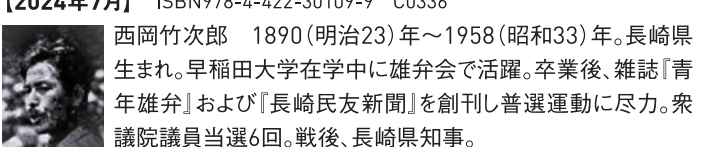
**第6回配本** 11巻 松尾理也(大阪芸術大学短期大学部メディア・芸術学科教授)

『橋本登美三郎の協同——保守が夢見た情報社会』  
 【2024年5月】 ISBN978-4-422-30111-2 C0336



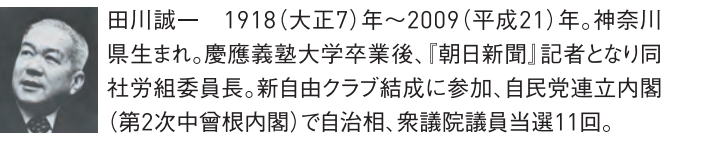
**第7回配本** 9巻 福岡良明(立命館大学産業社会学部教授)

『西岡竹次郎の雄弁——苦学経験と「平等」の逆説』  
 【2024年7月】 ISBN978-4-422-30109-9 C0336



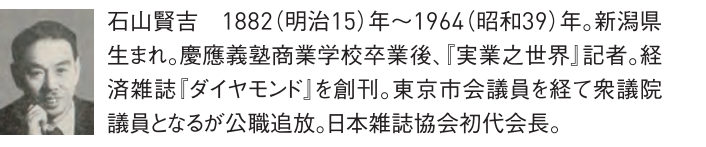
**第8回配本** 13巻 山口仁(日本大学法学部准教授)

『田川誠一の挑戦——保守リベラル再生の道』  
 【2024年9月】 ISBN978-4-422-30113-6 C0336



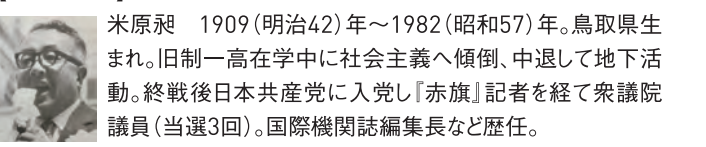
**第9回配本** 8巻 佐藤彰彦(流通科大学人間社会学部専任講師)

『石山賢吉の決算——ダイヤモンドの政治はあるか』  
 【2024年11月】 ISBN978-4-422-30108-2 C0336



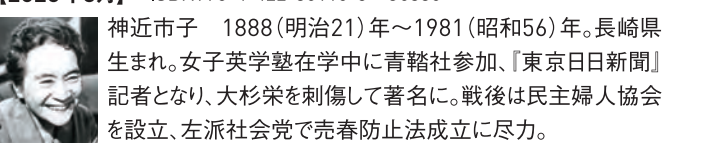
**第10回配本** 12巻 松永智子(東京経済大学コミュニケーション学部准教授)

『米原昶の革命——不実な政治か貞淑なメディアか』  
 【2025年1月】 ISBN978-4-422-30112-9 C0336



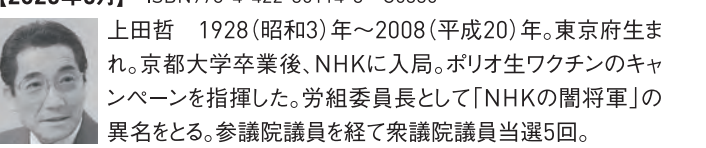
**第11回配本** 10巻 石田あゆむ(桃山学院大学社会学部教授)

『神近市子の猛進——婦人運動家の隘路』  
 【2025年3月】 ISBN978-4-422-30110-5 C0336



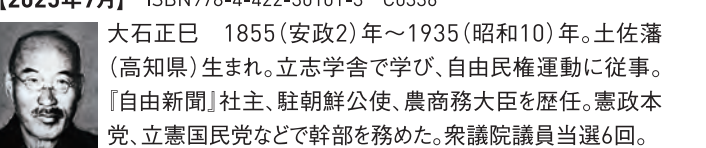
**第12回配本** 14巻 長崎励朗(桃山学院大学社会学部准教授)

『上田哲の歌声——Why not protest?』  
 【2025年5月】 ISBN978-4-422-30114-3 C0336



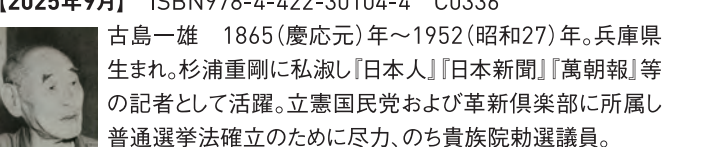
**第13回配本** 1巻 片山慶隆(関西外国語大学英语国際学部教授)

『大石正巳の奮闘——自由民権から政党政治へ』  
 【2025年7月】 ISBN978-4-422-30101-3 C0336



**第14回配本** 4巻 戸松幸一(株式会社もくようしゃ代表)

『古島一雄の布石——明治の俠客、昭和の黒幕』  
 【2025年9月】 ISBN978-4-422-30104-4 C0336



**第15回配本** 15巻 河崎吉紀(同志社大学社会学部教授)

『近代日本メディア議員人名辞典・付総索引』  
 【2026年1月】 ISBN978-4-422-30115-0 C0336

# 政治学、社会学、メディア学・マスコミ研究、近現代史、公共図書館、大学図書館、高校図書館



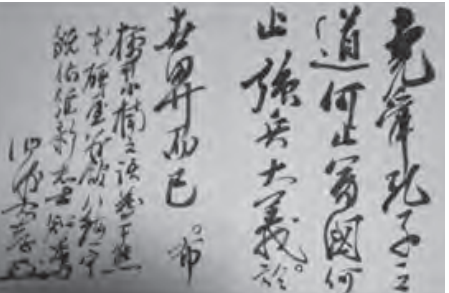
**池崎忠孝の明暗**  
 教養主義者の大衆政治

## 本シリーズの特長

- ・著名だが新たな像を刻める議員、典型的だが評伝の少ない議員、県紙経営型、女性、保守本流、左翼系、雑誌経営型など様々なタイプの14名を取り上げ、メディアと政治が不可分の時代に、現代政治家のモデルとも反面教師ともなるメディア政治家像を提起する。
- ・〈教育〉〈メディア〉〈政治〉の観点から各議員にアプローチ。シリーズ全体で一体感をもって読めるよう配慮した構成。
- ・注釈は付けずに噛み砕いた描写を心掛けた、人物評伝ならではの読みやすい文章。
- ・定評ある研究者が執筆陣に集結、丹念な資料探索をもとに各議員の知られざる一面を活写する。
- ・各巻末には「著作年譜」を収録。議員の生涯と著作一覧があわせて一瞥できる。

### おすすめします

序章 政治家をめざした文筆家



右:図0-1 石田三成顕頌碑(題字-橋田邦彦文部大臣)、池崎忠孝[概説石田三成] グラビアより  
 上:図0-2 石田三成顕頌碑建立奉祝会にて池崎忠孝の書(徳明寺蔵)



政治学、社会学、メディア学、近現代史、公共図書館、大学図書館、高校図書館

その解説パネルには「衆議院議員池崎忠孝」の名がはっきりと書き込まれている。「この碑は昭和十六年十一月ときの滋賀県知事近藤壤太郎、顕彰会長下郷伝平、衆議院議員池崎忠孝氏等のご尽力で建立された石田三成公顕彰碑です。表の題額は文部大臣橋田邦彦先生の書になり、裏は文学博士渡辺世祐先生の撰文を当時の滋賀県知事近藤壤太郎先生が書かれています。」この石田三成顕頌を推進した中心人物は、内務官僚の官選知事・近藤壤太郎や貴族院多額納税者議員で長浜町長・下郷伝平ではない。大阪府第三区選出の衆議院議員・池崎忠孝である。その顕頌碑から少し離れた山麓に池崎忠孝の墓もある。徳明寺のご住職が顕頌碑建立時に書かれた池崎の色紙を見せてくれた(図0-2)。池崎は幕末に米國留学する甥に向けた横井小楠の送別辞から次の言葉を力強い筆致で切り出している。



らに日本、アジア——にこだわった文筆家、政治家だった。まず「激門十弟子」赤木桁平の評伝『夏目漱石』（一九一七年）を手には漱石の墓のある池袋の雑司が谷靈園を想い、さらに「前垂れ掛け法学士」池崎忠孝の出世作『米國怖（一九二九年）』を持って大阪市東区農人橋二丁目の池崎商店跡を考えた。雑司が谷の漱石に芸がなく、農人橋二丁目は大坂大空襲で風景が一変している。その生きざまの痕跡が池崎家の菩提寺・徳明寺のある滋賀県長浜市石田町に決めた。

2文治派・石田三成の顕彰——『概説石田三成』（一九四二年）

文治帷幄の顕彰碑と文部参与官の墓  
 二〇二二年二月四日、私は徳明寺から徒歩数分の石田三成公出生屋敷跡に池崎忠孝（一九四二年）を手にして立った。同書は「太平洋戦争の関ヶ原」、ミッドウエー海戦か、「衆議院議員・元文部参与官」の肩書で発行されている。若書きの評伝『夏目漱石』や、「怖るゝに足らず」より、衆議院議員の「概説石田三成」がメディア議員評伝の目的に適た。「軍事評論を書く文教議員」の生涯が「武功を求めた文治派」のそれに重なるから。石田三成公出生屋敷跡には、一九四一年に建立された巨大な顕頌碑(図0-1)がいまも屹立している。



／「我が文は何れ日本書なる也」(帝國文学「一月」号)／小説対相平小針兵一(近代思想)「二月」／思想上より見たる「現代文明」(近代思想)「二月」／「矢野龍渓の批評」赤木桁平の「新稿」(新稿)「一月」／「死の闘争」赤木桁平の「新稿」(新稿)「一月」／「所謂」然土野矢野龍渓に就いて(生長江氏)「月刊小説」(新稿)「二月」(一)／「今年」の我が文に於ける最も得意の最も感動しめたる作品の自序(自伝)三拾年の所懐(自伝)「二月」号(予は果して自ら著述家と稱する事、由良長法に於て「帝国文学」二月号)④「事件」と入(二)方面から見た「時事」(新稿)「二月」号(大正五年の創作集)「黒潮」(二)月号(改訂)「時事」に就いて(赤木桁平)「時事」(時事)「二月」号(「夏目漱石」)「時事」(二)月号(「寸草」)「日本評論」(時事)「二九七」(大正五年)「文藝」(編輯)「時事」(編輯)「政治経済と精神」(東京帝国大学法科大学法科卒業)「高朝」(政治経済と精神)「新稿」(二)月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑨赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑩赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑪赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑫赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑬赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑭赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑮赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑯赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑰赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑱赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑲赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)⑳赤木桁平「評伝赤木桁平」(新稿)「二」月号(一九四〇年)七月、徳明寺と結縁(東京帝国大学法科大学法科卒業)

※予定は変更となる場合がございます。

組見本(70%に縮小)